

山崎しんのすけ

2
2022

国政ニューズレター vol.04/feb-I

1 国会での質問は既に4回 政府は対コロナ戦略の ビジョンを示すべき



蔓延防止等重点措置などが適用されるたびに政府は国会に報告することが義務付けられている関係で、議院運営委員会に所属している私にとって、その都度質問するチャンスがやってきます。先日の2月10日で早4回目の質問となりました。

質問の内容は多岐にわたっています。蔓延防止等重点措置の効果やその中身の是非、検査キット不足への対策、ワクチンの確保、保健所の負担軽減策、そして水際対策の緩和のタイミングなど、限られた時間の中で現場の声を国政に届けるべく奮闘しています。

政府は、対コロナ戦略のビジョンを描けていません。オミクロン株は、デルタ株とは全く異なる敵なのに、同じような戦い方を続けています。今は、2年前のコロナが初上陸した頃とは置かれている状況が明らかに違います。重症化リスクは抑えつつも、社会経済を動かしていくために、いち早くビジョンを示すべきです。私も、引き続き与えられた機会を大切に、全力を尽くして参ります。

国会日程 // SCHEDULE

- 2月 21日(月) 予算案衆議院で可決の見通し、参議院で審議開始
- 3月 ~ 法案に関する質疑開始
- 6月 15日(水) 通常国会会期末予定
- 7月 10日(日) 第26回参議院議員通常選挙投票日(見込み)

2 eスポーツの広告価値を検証 健全な市場発展に期待

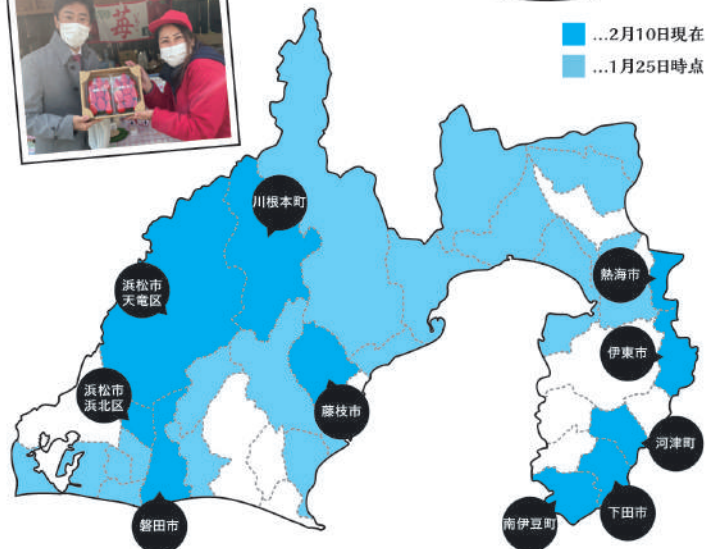
現在、経産省では「Z世代におけるeスポーツ及びゲーム空間における広告価値の検証事業」を行っています。これは、2020年末に世界最大の消費者グループ(23億人)となるZ世代(1998~2016年生まれ)を対象に調査を行うもので、eスポーツやゲーム空間と経済の好循環を発展させることを目的としています。3月まで調査を行い、5月頃には結果が公表される見込みとありますが、これが明確になると、これらの市場の発展に大きな追い風となります。

私は県議時代、1日あたりのデジタルメディアの利用時間が250分を超える若者の生活様式を踏まえた上で、そうした媒体を通じた効果的な情報発信をすべきと主張してきましたが、この検証はそれを補強する格好の材料となりそうです。私は、静岡県でeスポーツの普及に努めてきた経験があるだけに、今後は国レベルでの施策推進を後押ししていきたいと思っています。

街頭演説

しんのすけが行く!!
-全県行脚MAP-

静岡県43市区町
(33市町+2政令市の10区)



3 今国会で審議される児童福祉法改正案

TOPIC

全国の児童虐待件数は、残念ながら毎年増加しています。そこで今国会では、児童虐待が起こる前からの予防体制強化に向けて、子育て世帯に対する包括的な支援体制の強化を柱とした児童福祉法改正案が提案されます。主な内容は以下の通りです。

●里親を支援するフォスタリング機関(里親の開拓から研修まで行う)は児童福祉施設として児童福祉法に位置づけ設置基準をつくる。

●人員や設備などを定めた最低基準を作成。具体的には、市町村に対しては母子保健分野の子育て世代包括センターと児童福祉分野の子ども家庭総合支援拠点の一体化を努力義務とする。さらに支援の必要性が高い場合には個

別支援計画をつくる。

●児童養護施設出身者の自立支援強化に向け年齢制限を撤廃し、自立するまで支える体制をつくる(これまでは22歳の年齢制限あり)。

私はこの法改正には賛成です。一人でも多くの子どもが救われるよう、これからも体制強化に向けて担当省庁に提言して参ります。



カーボンニュートラル実現に向けて

通常国会もあつという間にひと月が経過しようとしています。3月からは、参議院でも活発な論戦が展開されることとなりますが、私が所属する経済産業委員会で重要なテーマと言えば「カーボンニュートラル」です。

近年、毎年のように気候変動の恐怖を味わっている私たちですから、これは誰にとっても避けて通れない課題です。現在の日本の国際目標は、2050年にカーボンニュートラルゼロ(=CO2実質排出量ゼロ)。また中間目標として、2030年にCO2排出量を2013年度比で46%減少させるという非常に高いものでありますが、なぜかガソリン車を電気自動車に変えることばかり殊更に強調されている風潮が漂っています。しかし、これは

真の良

明らかに間違っています。

確かに、部門別CO2排出量を見てみると、自動車を含む運輸部門は18%であり、決して低い数字ではありません。しかし、電気を作る発電部門は約40%、製造部門も25%近くあり、全体を見た議論と対策が必要です。また、自動車産業には日本の約1割の方が従事されていると言われております。そのほとんどがガソリン車に関わっているわけですから、これを急にEVに変えようとすると、雇用維持が心配です。

カーボンニュートラルは達成すべき目標だと思います。しかし、それによって経済や生活が脅かされるのでは本末転倒です。産業界も国民も、そして環境も、Win-Win-Winになれるよう丁寧かつ着実に段階を踏んでいけるよう国会での議論を深めていきたいと思っております。

政策探究 ～省庁レクチャー記録抜粋～

- 特定デジタルプラットフォームの透明性および公正性の向上に関する法律(経産省)
- Z世代におけるeスポーツ及びゲーム空間における広告価値の検証(経産省)
- 公立小中学校等の教職員定数算定の仕組み(文科省)
- 事業成長担保権(仮称)の検討状況について(金融庁)
- 電動モビリティの新たな交通ルール(国土省)

※令和4年2月1日以降

山崎真之輔 プロフィール



- 40歳3児の父親
- 浜松北高等学校、名古屋大学法学部卒業
- 元衆議院議員 鈴木康友(現浜松市長)秘書
- 浜松市議会議員(2期)/静岡県議会議員(3期)/参議院議員(1期目)
- 所属党派:国民民主党・新緑風会
- 所属委員会:議院運営委員会、経済産業委員会
- 趣味:スポーツ全般、カラオケ、読書、マラソン、日本舞踊(花柳流名取)、ボードゲーム、eスポーツ

PROFILE

国会事務所

〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1 参議院会館520号室
TEL.03-6550-0520 FAX.03-6551-0520 Email.shin_sk@me.com
オフィシャルサイト▶ <https://www.shin-sk.net/>



本紙面やSNSではお伝えできない価値ある情報を月に数回お届けします。是非、ご登録をお願いします!